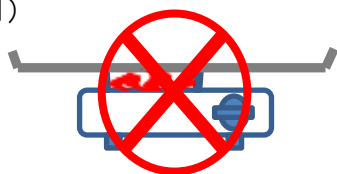
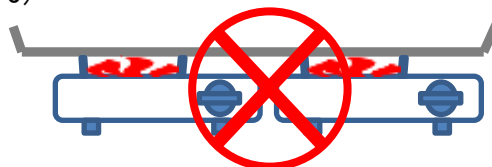
イベント（露店等）会場における火災予防について

この用紙をチェック表に活用ください。
異常の有無を確認して、異常があった場合には、改善して良好な状態にして□にチェックすること。
また、記載されている留意事項の確認後に□チェックしてください。

○ コンロ等（カセットコンロ・ガスコンロなど）の使用時の注意事項

- □ 周囲には可燃物や危険物を置かない。
- □ 点火するときは燃料漏れがないことを確認する。
- □ ゴム製ホースはプロパンガス専用の物を使用する。
- □ ゴム製ホースの接続部はホースバンド等で確実に締め付ける。
- □ ゴム製ホースが劣化しているときは交換する。
- □ ベニヤ板や段ボールなどの可燃物で囲まない。
- □ コンロは、安定した台の上に安定した状態で使用する。
- □ コンロをおおうような大きな調理器具は使用しない。[1)]
- □ 調理以外の用途に使用しない。（木炭や練炭の火おこしなど）[2)]
- □ カセットコンロを２台以上並べて使用しない。[3)]
- □ テントや車内で使用しない。
- □ 廃棄の際はガスが残っていないことを確認して取り決めに従い廃棄する。

○ ガスボンベ使用時の注意事項

- □ 直射日光や火気の近くを避ける等ボンベを４０度以下に保つ。
- □ 倒れないように固定する。
- □ 必要最小限の量とする。

○ その他の注意事項

- □ 電気コードはタコ足配線にせず，電気機器の許容電流を守る。
- □ 取扱説明書（こんろ，ガスボンベ等）の安全事項を必ず守る。
- □ 消火器や水バケツを準備する。

ガソリンの貯蔵・取扱い時の留意事項

《ガソリンの特性》

- □ 引火点は－４０℃程度と低く、極めて引火しやすい。
- □ 揮発しやすく、その蒸気は空気より約３～４倍重いので、滞留しやすく可燃性の雰囲気が広範囲に形成されやすい。
- □ 電気の不良導体であるため、流動等の際に発生した静電気が蓄積しやすい。

《貯蔵・取扱い時の留意事項》

- □ ガソリンを取り扱っている周辺で火気や火花を発する機械器具等を用いない。例えばガソリンを取り扱っている場所から１ｍ離れた場所に置かれた洗濯機で火災に至った事例や、火気や火花がなくても人体に蓄積された静電気で火災に至った事例が報告されており、ガソリンを取り扱う場合は細心の注意を払わないと容易に火災に至る危険性があります。
- □ 静電気による着火を防止するためには、金属製容器で貯蔵するとともに、地面に直接置くなど静電気の蓄積を防ぐ必要があります。また、**消火器を必ず準備**しましょう。
- □ ガソリン容器からガソリン蒸気が流出しないように、容器は密栓するとともに、ガソリンの貯蔵や取扱いを行う場所は火気や高温部から離れた直射日光の当たらない通風、換気の良い場所とすることが必要です。特に夏期においてはガソリン温度が上がってガソリン蒸気圧が高くなる可能性があることに留意しましょう。
- □ 取扱いの際には、開口前の圧力調整弁の操作等、取扱説明書等に書かれた容器の操作方法に従い、こぼれ・あふれ等がないよう細心の注意を払いましょう。万一流出させてしまった場合には少量であっても回収・除去を行うとともに周囲の火気使用禁止や立入りの制限等が必要です。衣服や身体に付着した場合は、直ちに衣服を脱いで大量の水と石けんで洗い流しましょう。
- □ ガソリン使用機器の取扱説明書等に記載された安全上の留意事項を厳守し、特にエンジン稼働中の給油は絶対に行わないようにしましょう。
- □ ガソリン缶の蓋開をける際には、周囲の安全を確認し、機器のエンジン停止、缶のエア抜きを行いましょう。
- □ その他の注意事項

ガソリンの貯蔵に適した容器の例
（金属製容器であることが必要）

ガソリンの貯蔵に適さない容器の例
（樹脂製容器は火災危険性が高い）

うるま市消防本部予防課
電話　098-975-2119